



発行日 2006年8月25日 第21号

発行 札幌歯科医師会口腔医療センター

〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目

TEL(011)512-9497 FAX(011)511-2272

<http://www.dnet.or.jp/center>

E-mail omc-s@dnet.or.jp

発行人 菊田 浩一 発行責任者 藤田 一雄



皆さんこんにちは

札幌歯科医師会 口腔医療センター所長
菊田 浩一

今回は札幌歯科医師会口腔医療センターの概要をご説明したいと思います。

口腔医療センターは札幌歯科医師会で運営されております。

センターの歴史的なこととなりますが、昭和48年 札幌市の人口増加に伴い市民の夜間における歯の痛み、口の中の外傷、出血に対処すべく、市との協議のうえ夜間救急診療部を発足させました。

それ以来年中無休で歯科医師会会員の先生が輪番制で診療にあたっています。又日曜日、祝日には札幌医科大学口腔外科からの派遣医にお願いしています。当時としては、非常に画期的な事業として評価され、全国からも注目されており、今も尚、診療体系のノウハウの問い合わせや、視察を受けているところです。

又昭和57年には、障がい者(児)に対する障がい者診療部を発足させました。当時から現在においても障がい者を受け入れる一般の歯科医療機関は決して多くはありません。センターではできる限りの設備を整え、歯科医師会会員の担当医、各大学からの専門医が一生懸命月曜日から土曜日まで診療にあたっています。

受診される患者さんに対しては、虫歯の治療や歯の痛みを解消するだけでなく、きちんと咬むことができる冠や義歯を装着します。又、各々の障がいを正確に把握し、本人はもちろん保護者の方、世話をされている方々等と密接な連携を保ち日常生活環境、習慣をお聞きし、一人ひとりの患者さんに合った口の中のケアの仕方をお知らせするようにしております。

もうひとつ当センターでは、平成10年より、摂食・嚥下リハビリテーションを行っています。思うように食べ物を飲み込めない、すぐむせる等の症状を少しでも改善しようと、これも会員の先生が担当医になって診療にあたっています。根気のいる分野ではありますが、誤嚥性肺炎や重篤な事態にもなる 喉つまり、等の防止に効果を上げていますし、何よりも口から美味しいものを食べられるという究極の幸福感を与えられます。

このようなことを行っている口腔医療センターですが、運営に対しては発足以来、北海道、札幌市よりの補助金で成り立ってきており、昨今の財政難の中、自治体の多大なる理解には感謝するところであります。

みなさん、当センターの診療担当医は常に知識、技術を積んでおり、親身になって診療にあたっています。又歯科衛生士を含めたスタッフも熟練者ばかりですのでどうぞ安心して来所して下さい。



さっぽろ歯っぴいらんど2006

in サッポロファクトリー開催



札幌歯科医師会口腔センター担当理事
宮田 研

6月4日は「むし歯予防デー」ですね。むし歯の記念日ではありません。

6月4日から10日までの1週間を「歯の衛生週間」とし、全国で歯に関するいろいろなイベントが開催されます。札幌でも「さっぽろ歯の衛生週間」という名で昭和40年から開催され今年で42年になりました。自己紹介が遅れました私、今度は口腔医療センターを担当することになりました。よろしくお願いします。

今年も去年に引き続き、6月10日(土)に「サッポロファクトリー」アトリウム広場において開催されました。これは子どもからお年寄りまで皆さんに見て・聞いて・楽しく歯のことを学んでもらおうという札幌歯科医師会が企画した体験型歯科啓発イベントです。

ステージや各コーナーで大きな盛り上がりを見せ、あいにくの雨にもかかわらず4,400名をこえる参加がありました。同時に同じ会場で「YOSAKOIソーラン祭り」も開催されていましたがこちらの「歯の祭り」も決してひけをとらないものでした。



ステージでは子どもたちに大人気のミッフィーと歌のおねえさんのオーラルケアショー、北海道歯科衛生士会札幌支部の皆さんのブラッシング指導、歯の健康〇×クイズなどが次々と繰り広げられました。

ステージ前の体験コーナーでは「歯の宝島」ということで歯の健康相談(検診)、歯科ドック、札幌歯科学院専門学校(歯科大学)の学生さんの歯の健康クイズ、別室では手がた型どりコーナーが店開し、開場と同時に長蛇の列ができていました。

また毎年恒例となった「歯の衛生に関する図画・ポスターコンクール」には札幌市内の小・中学校17校より467点の応募があり、特選に選ばれた方々に対しては一人ずつ藤田会長よりステージで賞状と記念品が授与されました。

そのなかで、昨年に引き続き80歳以上で歯が20本以上ある方を対象に行った「8020表彰」には66名の元気なお年寄りの参加があり、表彰の後で口腔医療センターの中澤企画研修部長より講話が行われました。中澤部長は相変わらず絶好調で、まさに8020(ハチマルニイマル)のステキなお年寄りたちのアイドルといったところでした。詳しくは次の及川先生の欄をご覧ください。

さっぽろ歯っぴいらんど2006inサッポロファクトリーは市民の方々と直接お話をし、交流を深めたいへん重要な機会と考えます。

来年もさらに楽しい企画をたくさん用意しますので「ぱるす」を読んだ皆さんも是非参加してください。そして歯について楽しくたくさん学んでいただければと思います。



さっぽろ歯っぴいらんど2006に 口腔医療センターも参加！！

企画研修部所員 及川 透

6月10日「さっぽろ歯っぴいらんど2006」が、「サッポロファクトリー」アトリウム広場において開催されました。そのなかで、昨年に引き続き、80歳以上で歯が20本以上ある方、66名を対象に「8020表彰」の後、口腔医療センター企画研修部中澤部長の講話がありました。

近年は健康ブームで、ウォーキング、ジョキングなどがはやり、さまざまな健康食品やサプリメント、さらに脳年齢を鍛えるテレビゲームが大変売れております。

医療界も抗加齢医学が脚光を浴びております。

講話の今年のテーマは、「お口のアンチエイジング、若返り」です。「歯の数年齢」「噛む力年齢」「歯ぐき年齢」「飲み込み年齢」「唾液年齢」の5つですが、このうちどれかが劣ってもおいしく食事を取ることができません。

お集まりの皆様は歯には自信をお持ちの方々ばかりなので、特に「飲み込み・唾液年齢」に焦点を当ててお話しされました。飲み込みが衰えると、食事が楽しくなくなり、徐々に栄養が不足し免疫力も低下し、病気にかかりやすくなります。

今回は簡単なスクリーニングの反復唾液飲みテストをおこないました。2回以下で飲み込み障がいですが、なんと7回を越える方もおられました。お口の若返りにはまず口腔ケアが重要であり、誤嚥性肺炎のリスクを減らすことができます。後半は唾液の分泌を促すつぼのマッサージや、嚥下体操をおこないましたが、講師のオーバーアクションにつられてか、会場の皆様はとても熱心に実践されておりました。

講演の資料を欲しがる方もおられ、後日事務局より郵送させていただきました。

最後に「おいしい物を食べて笑顔を増やしましょう」を言葉で、終了となりました。

計3回の講話でしたが、講師の中澤先生お疲れ様でした。



これからのセンターの予定

センターホームページがリニューアル 装いも新たにもうすぐスタートです。

ぱるす20号、ぱるす号外も載せました。

1. 介護・口腔ケアセミナー開催 9月20日(水) 札歯会館5階大講堂 午後7時より
本年度第1回のセミナーは会員および会員診療所勤務の歯科衛生士対象です。
テーマは口腔のリハビリが中心になる予定です。
2. 第1回所員・担当医研修会 10月4日(水) 札歯会館5階大講堂 午後7時より
介護予防新時代における『口腔機能の向上支援』の役割
日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授 植田耕一郎先生
今回は公開講座の予定です。



働く喜び ～ 地域で生きる



岡崎 卓さんのお母さん
岡崎 智子さん

息子が口腔医療センターにお世話になったのは、小学校に入った時ですから早いものでもう15年になります。現在22才になった息子は通所施設に通っています。そして親の私も同じ施設に勤務しています。親子で毎日仲良く通勤しています。40名程の通所利用者として、日中ですが生活をともにしお互いの信頼関係を築く中で、今回地域の方々との交流を通して成長された、通所として18年になるM君のことをご紹介します。

今年の春、玄関前にテントを張り、花と野菜の苗を売る即売会が開店しました。シルバー人材センターから2名の方が交替で来てくれました。昼食時の30分位ですが、中で休息してもらおうと私が店番を代わったのですが、花に関してはまったく無知なものですから、誰か助っ人をと抜擢したのがM君でした。最初は緊張のためか声も小さくぎこちなかったのですが、日を追うごとに「いらっしやいませ」「ありがとうございました。」と声も大きく、そして「たくさん買って下さい」と積極的に販売する姿に、一日売り子さんに昇格しました。

地方の方が毎日たくさんお店に来てくださいました。「お兄ちゃんがたくさん買ってと言うものだから、こんなに買っちゃった。」と言われる方も多く、すかさず私は「この子が一生懸命作った花なんです。」と答えます。するとはいかに、恥ずかしそうに笑うM君に「あら、そうなのお兄ちゃんが作った花だから、おばさんきれいに咲かせなきゃね。」と会話がはずみます。

こうした地域の方とのふれあいがM君の大きな励みになったと思います。雨の日はテントにたまった水を棒で何度もかき出し、風の日も暑い日も肌寒い日も一日も休むことはありませんでした。この頑張りには私も頭が下がります。今後「薬がなくなるので〇〇日休みます。」と休む日を心待ちにしていたころとは違って、働くことへの喜びや自信がついたようにM君の姿を通して感じるこの頃です。閉店してすぐにとてもかわいがって下さった2人のおばさんに、お礼の手紙を一緒に書きました。雨の中2人でカサをさし歩いて近くのポストへ投函をすると、さっそく返事が来ました。手紙を読んであげると、とっても喜んで「お母さんにみせるんだー」と持って帰りました。数日後「顔を見に来たよ」と会いに来てくださり、交流が始まりました。もうM君のきもちは来年の即売に向けて始動しています。この1ヵ月半で心身ともに逞しくなったM君、その原動力にはお母さんの励ましと、近隣、地域の皆様方とのあたたかいふれあいがあったからだ、あらためて実感しました。

今年4月、自立支援法がスタートし、利用者にとって保護者にとっても、生活しにくい世の中になりつつあります。そんな中で少しでも利用者の方々、この通所施設が居心地のいい場所であってほしいと願うと共に、地域の方々にかわいがられるように、努力したいと思っています。“卓のお母さん”は、今日も皆さんからパワーをもらって頑張っています！



口腔医療センター 新人紹介

口腔医療センター歯科衛生士 竹内 聖子



4月より、口腔医療センターにて勤務することとなりました、竹内です。

私は、今まで土曜日の診療スタッフとして、数年間携わってきましたので、土曜日に受診されている患者さんや、保護者の方々には顔を覚えて頂いているのではないかと思います。今後は、今まで以上に多くの患者さんや保護者の方々、施設の方々との信頼関係を築き、安心して診療を受けて頂けるよう努力して参りますので、よろしくお願い致します。

救急診療部からのお知らせ

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。継続的な治療は受けられませんのでご注意ください。

診療のご案内

診療時間 : 19:00~23:00

受付開始時刻 : 18:30

年中無休

電話番号 : (011)511-7774

障がい者診療部からのお知らせ

障がい者診療部は完全予約制になっております。

診療のご案内

予約時間 : 火~金 9:15~17:15

診療時間 : 月 14:00~17:00

火~土 9:30~17:00

金 9:00~17:00

(午前中は全身麻酔下診療)

電話番号 : (011)512-9497

編集後記

セツショクエンゲショーガイ(摂食・嚥下障がい)リハビリテーション、コークーキノーコージョー(口腔機能向上)。私が歯科医になったころにはなかった言葉ですね。遅れないように勉強しなければと思います。次はどのような言葉が登場してくるのでしょうか。

編集長 中澤 潤

